

連載「プロマネの現場から」

第179回 芳賀さんとの思い出

蒼海憲治（大手 SI 企業・製造業系事業部門・技術総括部長）

30 数年前の春。大学四年生だった私は就職活動をしながら、何らかの社会貢献のために自分の力を発揮したいと思う一方、はたして自分には何ができるだろうか、どの仕事が自分にとってふさわしい仕事だろうか、と悩みながら、先輩や企業の訪問をしていました。そんな中で出会ったのが、芳賀さんでした。

企業を含む組織は、ヒト・モノ・カネをリソースとして動いている。高度情報社会においては、これに情報が加わる。そして、高度情報社会においては、情報こそが一番のリソースである。情報を通して組織・企業の全体を把握することができる。

システムエンジニアは、この情報を収集・蓄積・分析することで、組織全体を把握・コントロールする存在である。

そのため、システムエンジニアの役割は重要であるし、その業務は決して簡単ではないですが、とてもやりがいがある仕事です。

「一緒に高度情報社会の枠組みを作りませんか？」

非常に紳士的で穏やかな語り口でしたが、真っ直ぐこちらの目を見て、一学生に対して、熱く語っていただきました。

そのとき、ご一緒に仕事をしたいと思い、システムエンジニアの道を選択することに決めました。

それから 30 数年、数々のシステム構築やソリューションビジネスでの取り組みは、どのプロジェクトも、有期でリソースに制約があり、独自の特徴を持つがゆえに、悪戦苦闘する日々の方が多かった気がしています。そんな日常の中、折を触れて、芳賀さんから声かけいただき、鼓舞していただきました。

いまから 17 年ほど前、芳賀さんから数年ぶりに連絡がありました。情報システム学会において、「人間中心のシステム」というテーマを考えている。今後の取り組みを検討するに先立ち、今度、「哲学」を学び直そうとしているので、ぜひ参加しませんか。講師は、今道友信先生と、その門下の橋本典子先生になります、と。

学生の頃の専攻が、法哲学であったので、哲学に対する興味があったことと、日頃の仕事の捉え直しをしてみたいという気持ちもあり、喜んで参加しました。月に一度の勉強会はとても良い刺激になりました。勉強会終了後、自分でももう少し何かがしたくなり、プラトン全集を読破し、ギリシャへ行き、メテオラの修道院で『国家』の写本を観たのも、芳賀さんからの声かけのおかげと思っています。

本メルマガは、この哲学勉強会の後から開始し、足かけ15年間続けることできています。途中、プロジェクトの大バーストのリカバリー対応や、大規模オフショアのための大連との往復、その後の上海への赴任などありましたが、終始一貫、鼓舞し続けていただきました。その言葉には、浦先生が提唱された「人間中心の情報システム」をいかに構築するか、競争力が世界30位にまで落ちた日本をいかに立て直すか、という思いが常に基調低音として流れていました。

私自身のシステムエンジニアのスタートは、芳賀さんの言葉から始まりましたが、「人間中心の情報システム」をいかに構築するか、の熱い思いをバトンとして、今後も受け継いでいきたいと思います。

中国赴任中は帰国時、年に一度、芳賀さんとお会いし、お話しするのが楽しみでした。コロナ禍明けにお会いする約束をしていたため、今回の訃報は残念でなりません。

在りし日のお姿を偲びつつ、ご冥福をお祈りいたします。